

シラバス（授業概要）

令和6年度 後学期

授業科目名	経営戦略とファイナンス (Finance and Strategy)				ナンバリング	1-3-2-06	
担当教員	姜理恵 他				必修・選択	選択	
科目群	I類	修学段階	応用	開講時期	後学期	単位数	2単位
遠隔授業	対応可能			対象コース	起業実践コース・新事業開発コース		
学位授与方針との関連	○	先端光技術を駆使した研究、または起業実践、新事業開発に資する研究を実行する能力を身につける					
	◎	光技術を駆使した事業計画を立案し、実行する能力を身につける					
	—	新産業創成を推進する能力を身につける					
授業の概要	本講義は、基礎編（コーポレートファイナンス）と応用編（ベンチャーファイナンス）に分かれています。第1回から第8回では、経営財務の基本的考え方について講義します。ここでは、外部資金の調達手法と調達資金の活用方法、企業価値評価の計算、投資の意思決定の方法について講義します。第9回から第15回では、スタートアップ・ベンチャー企業特有の資金調達手法（ベンチャー投資・クラウドファンディング等）について講義します。						
ねらい・到達目標	本講義では「使えるファイナンス」の知識取得を目指します。具体的には、下記2点を到達目標とします。 ①企業経営者として、外部金融機関（銀行・証券会社）や株主と対等な立場で対話をするうえで必要な経営財務（コーポレートファイナンス）知識の修得②スタートアップ・ベンチャー企業が活用する資金調達手法の理解						
授業計画							
	授業内容	担当教員	授業外指示				
第1回	オリエンテーション（企業会計とファイナンスの基礎）	姜理恵	【予習】ファイナンスについて予習 【復習】配布資料について復習				
第2回	経営計画の策定（経営戦略とファイナンスの関係）	姜理恵	同上				
第3回	コーポレートファイナンス①（経営財務の基本）	姜理恵	【予習】参考文献の該当箇所の予習 【復習】配布資料について復習				
第4回	コーポレートファイナンス②（資本コストの意味）	姜理恵	【予習】参考文献の該当箇所の予習 【復習】配布資料・演習問題について復習				
第5回	コーポレートファイナンス③（資本コストの計算）	姜理恵	同上				
第6回	コーポレートファイナンス④（企業価値計算）	姜理恵	同上				
第7回	コーポレートファイナンス⑤（企業価値計算）	姜理恵	同上				
第8回	コーポレートファイナンス⑥（投資の意思決定）	姜理恵	同上				
第9回	ベンチャー投資①（VCの役割とその活動内容）	姜理恵	【予習】参考文献の該当箇所の予習 【復習】配布資料について復習				
第10回	ベンチャー投資②（VCとCVCの違い）	姜理恵	同上				
第11回	クラウドファンディング	姜理恵	同上				
第12回	地域の支援インフラ	姜理恵	同上				
第13回	金融資本市場における課題の最新動向①サステナブルファイナンス	林順一	【予習】教員が事前に配布する資料に目を通す 【復習】配布資料について復習				
第14回	金融資本市場における課題の最新動向②コーポレート・ガバナンス	林順一	同上				
第15回	総括	姜理恵	【予習】これまでの講義全体の振り返り 【復習】配布資料について復習				
成績評価	【評価方法】議論への参加度、並びに、講義内で行う演習問題の理解度により成績を評価する。 【評価基準】成績以下の基準により評価し、60点（C評価）以上を合格とする。 ・A：100～80点：到達目標を十分に達成できている優れた成績：合格 ・B：79～70点：到達目標を達成できている成績：合格 ・C：69～60点：到達目標を最低限達成できている成績：合格 ・D：59点以下：到達目標を達成できていない成績：不合格						
教科書・参考文献	講義の際、随時、ハンドアウト・資料を配布します。 参考文献 ①坂本恒夫・鳥居陽介（2015）『テキスト 財務管理論』中央経済社 ②石野雅一（2007）『道具としてのファイナンス』日本実業出版社 ③松田修一（2014）『ベンチャー企業』日本経済新聞出版社						
履修上の必要条件	企業会計特論を受講済であること。または、会計とファイナンスの基本用語を学習済みであること。						
授業外指示の補足	授業計画に沿って準備学修2時間及び事後学修2時間以上を行う 配布した講義資料や参考書を参照し準備学修2時間及び事後学修2時間以上を行う						
課題のフィードバック方法	個別に口頭で行う。						
担当教員からのメッセージ	ファイナンスの知識なくして企業経営に携わるのは、羅針盤なく大海を航海するようなものです。本講義をとらして、起業家・経営者として、また、ビジネスパーソンとして身に着けておくべきファイナンスの知識を修得してください。						

授業科目名	光医療・健康特論 (Advanced Medical and Health Photonics)				ナンバリング	2-3-2-15
担当教員	内藤康秀				必修・選択	選択
科目群	II類	修学段階	応用	開講時期	後学期	単位数
遠隔授業	対応可能			対象コース	起業実践コース・新事業開発コース	
学位授与方針との関連	◎	尖端光技術を駆使した研究、または起業実践、新事業開発に資する研究を実行する能力を身につける				
	○	光技術を駆使した事業計画を立案し、実行する能力を身につける				
	—	新産業創成を推進する能力を身につける				
授業の概要	光技術との関連を基軸とした質量分析概論、マトリックス支援レーザー脱離イオン化 (MALDI) の現象論とプロセス考察、その場分析など最先端の質量分析関連研究からの産業創成、など。以下は実施の一例で、具体的内容は受講者のニーズに合わせて設定します。					
ねらい・到達目標	<p>質量分析について初学者を対象にした基礎学習を基本としながら、第1回に受講者の背景、要望を聴取して柔軟に設定する。例えば</p> <p>①質量分析関連製品メーカーの受講者には、ユーザーが質量分析をどのように利用しどのような情報を求めているのか、ユーザーと直接コミュニケーションできる理解レベル</p> <p>②自身の製品開発等で質量分析を利用したい受講者には、測定作業の実際やデータの解釈法を習得し、学内外の質量分析計を利用できる理解レベル</p> <p>③研究上のヒントを得たい受講者には、質量分析関連のテーマを題材にして、光と複雑系物質の相互作用について考察できるレベルなど。</p>					
授業計画						
	授業内容	担当教員	授業外指示			
第1回	講義ガイダンス	内藤康秀	<p>【予習】 シラバスを通読し、自身の学修ニーズについて十分に検討する</p> <p>【復習】 学修内容についての要望を整理・精査する</p>			
第2回	質量分析概論1	内藤康秀	<p>【予習】 教科書の該当箇所を熟読し、疑問点があれば質問できるように整理する</p> <p>【復習】 興味を持った事柄は教科書に示された参考文献でさらに調べる</p>			
第3回	質量分析概論2	内藤康秀	同上			
第4回	質量分析概論3	内藤康秀	同上			
第5回	質量分析概論4	内藤康秀	同上			
第6回	質量分析概論5	内藤康秀	同上			
第7回	質量分析概論6	内藤康秀	同上			
第8回	質量分析概論7	内藤康秀	同上			
第9回	マトリックス支援レーザー脱離イオン化 (MALDI) の本質1 (輪読)	内藤康秀	<p>【予習】 事前配布する論文を熟読し、疑問点があれば質問できるように整理する</p> <p>【復習】 興味を持った事柄は配布した論文の参考文献でさらに調べる</p>			
第10回	MALDI の本質2 (輪読)	内藤康秀	同上			
第11回	MALDI の本質3 (輪読)	内藤康秀	同上			
第12回	MALDI の本質4 (輪読)	内藤康秀	同上			
第13回	MALDI の本質5 (輪読)	内藤康秀	同上			
第14回	最新の研究開発事例の紹介1	内藤康秀	同上			
第15回	最新の研究開発事例の紹介2	内藤康秀	同上			
成績評価	<p>【評価方法】 毎回の講義における問答等 (50 点)、および提出されたレポート (50 点) の合計点により採点する。</p> <p>【評価基準】 成績は以下の基準により評価し、60 点 (C評価) 以上を合格とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A : 100~80 点 : 到達目標を十分に達成できている優れた成績 : 合格 ・ B : 79~70 点 : 到達目標を達成できている成績 : 合格 ・ C : 69~60 点 : 到達目標を最低限達成できている成績 : 合格 ・ D : 59 点以下 : 到達目標を達成できていない成績 : 不合格 					
教科書・参考文献	マスペクトロメトリー 原書3版 (ISBN 978-4-621-30497-6)					
履修上の必要条件	受講者の専門分野による制限や、予備知識についての要求は、特に設けない。					
授業外指示の補足	授業計画に沿って準備学修2時間及び事後学修2時間以上を行う					
課題のフィードバック方法	講義内で実施する小テストやレポートについては、少人数授業の利点を活かして講義内でフィードバックし、課題に関連する事項の提示などにより課題内容をさらに深堀りする。					
担当教員からのメッセージ	質量分析について深く学習したい人を対象に、上記「マスペクトロメトリー原書3版」をテキストにしたゼミを別途行います。					

授業科目名	バイオフィotonics工学特論 (Advanced Biophotonics Engineering)				ナンバリング	2-3-2-16
担当教員	横田浩章				必修・選択	選択
科目群	II類	修学段階	応用	開講時期	後学期	単位数
遠隔授業	対応可能			対象コース	起業実践コース・新事業開発コース	
学位授与方針との関連	◎	尖端光技術を駆使した研究、または起業実践、新事業開発に資する研究を実行する能力を身につける				
	○	光技術を駆使した事業計画を立案し、実行する能力を身につける				
	—	新産業創成を推進する能力を身につける				
授業の概要	光合成、視覚など植物・動物の基礎的な光生物学について紹介するとともに、遺伝学、農業、医学などのへの光の応用を扱う。また、生体分子の取り扱い・バイオイメーjingに必要な知識も提示する。基礎生物学を発展させた内容を含む。随時、各分野における最新情報や最先端技術を盛り込む。					
ねらい・到達目標	光を軸にしたバイオ・メディカル周辺の基礎と応用および、生体分子の取り扱い・バイオイメーjingに関する講義を通じて、最先端のバイオフィotonicsに用いられている光技術の理解を促進し、産業創成のためのアイデアを得ることを目標とする。					
授業計画						
	授業内容	担当教員	授業外指示			
第1回	ガイダンス・光と生物：植物 (光合成・光受容体・光発芽)	横田浩章	【予習】シラバスを通読し、自身の学修ニーズについて十分に検討する 【復習】配布資料について復習等			
第2回	光と生物：植物 (光形態形成・光屈性)	横田浩章	【予習】参考書等を用いた予習 【復習】配布資料について復習等			
第3回	光と生物：植物 (光遺伝学)	横田浩章	同上			
第4回	光と生物：動物 (概日リズム・視覚)	横田浩章	同上			
第5回	光と生物：生体分子の分析 (核酸)	横田浩章	同上			
第6回	光と生物：生体分子の分析 (タンパク質)	横田浩章	同上			
第7回	光と生物：光学顕微鏡	横田浩章	同上			
第8回	光と生物：電子顕微鏡・原子間力顕微鏡	横田浩章	同上			
第9回	光と生物：蛍光顕微鏡の基礎	横田浩章	同上			
第10回	光と生物：様々な蛍光顕微鏡	横田浩章	同上			
第11回	光と生物：最先端のバイオ顕微鏡	横田浩章	同上			
第12回	光と環境：光障害とその防御機構 (太陽放射・紫外線・オゾン・地球大気の進化)	横田浩章	同上			
第13回	光と農業：植物工場・スマート農業・昆虫の光応答と光防除・施設園芸	横田浩章	同上			
第14回	光と医学：光と生体の相互作用・光による診断と治療・光干渉断層撮影 (OCT)	横田浩章	同上			
第15回	光と医学：レーザー治療・光免疫療法・放射光	横田浩章	同上			
成績評価	<p>【評価方法】講義へ積極的な取組を重視する。レポートを課す場合がある。</p> <p>【評価基準】"成績"以下の基準により評価し、60点 (C評価) 以上を合格とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A : 100~80点 : 到達目標を十分に達成できている優れた成績 : 合格 ・ B : 79~70点 : 到達目標を達成できている成績 : 合格 ・ C : 69~60点 : 到達目標を最低限達成できている成績 : 合格 ・ D : 59点以下 : 到達目標を達成できていない成績 : 不合格 					
教科書・参考文献	<p>教科書：特に定めない</p> <p>参考書：無敵のバイオテクニカルシリーズ 改訂第3版 顕微鏡の使い方ノート はじめての観察からイメージングの応用まで (羊土社) 1分子生物学 (化学同人)</p> <p>Principles of Fluorescence Spectroscopy Third edition (Springer)</p> <p>シリーズ・光が拓く生命科学 全8巻 編：日本光生物学協会 (共立出版)</p>					
履修上の必要条件	基礎生物学を学んだことがあるか、「光バイオ工学特論」の履修を条件とする。					
授業外指示の補足	授業計画に沿って準備学修2時間及び事後学修2時間以上を行う 配布した講義資料や参考書を参照し準備学修2時間及び事後学修2時間以上を行う					
課題のフィードバック方法	提出されたレポートにコメントをつけて返送する。					
担当教員からのメッセージ	さまざまなトピックにふれ、最先端のバイオフィotonicsへの理解を深めることを目指します。					

授業科目名	光加工・プロセス特論 (Advanced Laser Material Processing)				ナンバリング	2-3-2-17
担当教員	長谷川和男、沖原伸一朗 他				必修・選択	選択
科目群	II類	修学段階	応用	開講時期	後学期	単位数
遠隔授業	対応可能			対象コース	起業実践コース・新事業開発コース	
学位授与方針との関連	◎	尖端光技術を駆使した研究、または起業実践、新事業開発に資する研究を実行する能力を身につける				
	○	光技術を駆使した事業計画を立案し、実行する能力を身につける				
	—	新産業創成を推進する能力を身につける				
授業の概要	光加工・プロセス技術（レーザー加工技術）は、高い付加価値を付与・創出できる製造技術として活用されている。本講義では、各種レーザー加工技術の原理と特性、その産業応用例について講義し、起業・研究開発・製品開発のための光加工・プロセス技術の有用性について理解を深める。					
ねらい・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・材料に関する知識の獲得、各種レーザー加工技術の原理について理解すること、加工現象のモニタリング技術について知識を獲得すること、及び産業応用例を把握することをねらいとする。 ・起業/事業/研究/製品開発の推進におけるレーザー加工技術の有用性について把握すること。 					
授業計画						
	授業内容	担当教員	授業外指示			
第1回	材料工学(金属、樹脂、セラミックス)	長谷川和男	【予習】 事前配布資料について予習 【復習】 配布資料について復習等			
第2回	金属工学概論	田中浩司	同上			
第3回	レーザー加工法概論	長谷川和男	同上			
第4回	レーザーによる樹脂加工	長谷川和男	同上			
第5回	レーザー溶接・加工の信頼性/モニタリング	森青和	同上			
第6回	レーザーによるものづくりと機械学習	森青和	同上			
第7回	レーザー切断	金岡優	同上			
第8回	レーザー除去加工プロセス	沖原伸一朗	同上			
第9回	超短パルスレーザー加工について	沖原伸一朗	同上			
第10回	レーザー微細加工	日野教司	同上			
第11回	レーザー表面処理	長谷川和男	同上			
第12回	ケーススタディ/レーザー加工1	長谷川和男	【予習】 ケーススタディに関する事前調査 【復習】 ケーススタディ後の資料の更新			
第13回	ケーススタディ/レーザー加工2	長谷川和男	同上			
第14回	レーザー加工実習1 CW レーザー加工	沖原伸一朗	【予習】 事前配布資料について予習 【復習】 配布資料について復習等			
第15回	レーザー加工実習2 短パルスレーザー加工	沖原伸一朗	同上			
成績評価	<p>【評価方法】 毎回、理解度を確認するための小テストを実施する。</p> <p>【評価基準】 成績は以下の基準により評価し、60点（C評価）以上を合格とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A：100～80点：到達目標を十分に達成できている優れた成績：合格 ・ B：79～70点：到達目標を達成できている成績：合格 ・ C：69～60点：到達目標を最低限達成できている成績：合格 ・ D：59点以下：到達目標を達成できていない成績：不合格 					
教科書・参考文献	<p>テキストとして資料を配布する。</p> <p>□参考書：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新井 武二, レーザ加工の基礎工学(改訂版),丸善出版(2013). ・新井 武二, レーザー微細加工 基礎現象と産業応用, 丸善出版(2018). ・金岡 優, レーザ加工の実務 第2版,日刊工業新聞社(2013). <p>□副読本的読み物：・片山 聖二, トコトンやさしいレーザー加工の本,日刊工業新聞社 (2019)</p>					
履修上の必要条件	<p>特に無し。レーザー加工に関する知識や経験の無い方を前提にした講義を行う。</p> <p>遠隔授業：実習は不可</p>					
授業外指示の補足	<p>授業計画に沿って準備学修2時間及び事後学修2時間以上を行う。</p> <p>配布した講義資料や参考書を参照し準備学修2時間及び事後学修2時間以上を行う。</p>					
課題のフィードバック方法	Teams 上で対話的に個別フィードバックする。					
担当教員からのメッセージ	光加工・プロセス技術（レーザー加工技術）は、非接触加工であり、NC やロボット等の自動化技術との親和性も高く、高速・高精度な生産技術として認知されている。レーザー加工技術は新たな新事業実践への挑戦において有用な道具の1つであり、その有用性についても具体的な産業応用例を取上げ教授する。					

授業科目名	光エネルギー工学特論 (Advanced Energy Photonics)				ナンバリング	2-3-2-18
担当教員	藤田和久、森芳孝				必修・選択	選択
科目群	II類	修学段階	応用	開講時期	後学期	単位数
遠隔授業	対応可能			対象コース	起業実践コース・新事業開発コース	
学位授与方針との関連	◎	尖端光技術を駆使した研究、または起業実践、新事業開発に資する研究を実行する能力を身につける				
	○	光技術を駆使した事業計画を立案し、実行する能力を身につける				
	—	新産業創成を推進する能力を身につける				
授業の概要	前半は、太陽から地球まで、光を中心としたエネルギーの流れを俯瞰し、地球の気候変動に関する最新情報を共有し、気候変動由来の社会課題を事業機会と捉えながら、理解と議論を深める。後半は、太陽および日常のエネルギーの規模を把握した上で、核融合開発の状況について触れ、特に、レーザー核融合研究開発、及びレーザー核融合を支えるハイパワーレーザー技術の進展と産業展開について議論する。最後に受講者が設定したトピックについて学習内容を発表し、各人と皆で理解を深める。					
ねらい・到達目標	光エネルギーを軸にした、地球の気候変動、太陽光発電やレーザー核融合、レーザー加速などの先端技術、関連産業について理解を深め、興味を高める。理解・修得した内容について、第15回に実施する各自の発表を通して、その体系的理解を到達目標とする。					
授業計画						
	授業内容	担当教員	授業外指示			
第1回	太陽の放つエネルギーと日常のエネルギー	森	【予習】事前調べ資料予習 【復習】配布資料復習			
第2回	太陽と地球のかかわり①。太陽のエネルギー源から放射まで。	藤田	同上			
第3回	太陽と地球のかかわり②。地球の熱収支概観、光の役割	藤田	同上			
第4回	気候変動の理解① 気候変動政府間パネル(IPCC)報告、気候変動。	藤田	同上			
第5回	気候変動の理解② 気候変動 影響。(IPCC 報告)	藤田	同上			
第6回	気候変動の理解③ 影響、適応。(IPCC 報告)	藤田	同上			
第7回	気候変動の理解④ 適応、緩和。(IPCC 報告)	藤田	同上			
第8回	気候変動の理解④ 緩和 (IPCC 報告)、地球系エネルギーの流れ	藤田	同上			
第9回	太陽電池技術と太陽光発電産業の基礎と最新動向	藤田	同上			
第10回	フュージョン発電が目される背景	森	同上			
第11回	フュージョン発電の基礎	森	同上			
第12回	レーザーフュージョン発電の要素技術、レーザー核融合の課題と現状	森	同上			
第13回	フュージョン発電実現に向けた各国の政策	森	同上			
第14回	ハイパワーレーザーの応用とチャープパルス増幅技術	森	同上			
第15回	発表、討論	森、藤田	【予習】発表資料準備のこと 【復習】討論内容の反映			
成績評価	【評価方法】第15回実施の課題発表(ご自身が理解・修得して終わりたい内容を皆の前でプレゼンし、理解度と達成度向上を図る(則る))及びテーマ毎の小テスト。 【評価基準】成績は以下の基準により評価し、60点(C評価)以上を合格とする。 ・A: 100~80点: 到達目標を十分に達成できている優れた成績: 合格 ・B: 79~70点: 到達目標を達成できている成績: 合格 ・C: 69~60点: 到達目標を最低限達成できている成績: 合格 ・D: 59点以下: 到達目標を達成できていない成績: 不合格					
教科書・参考文献	気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 報告書 (例: 環境省HP https://www.env.go.jp/earth/ipcc/6th/index.html) 太陽電池のエネルギー変換効率、コロナ社 (図書館蔵) 図解でよくわかる 核融合エネルギーのきほん 誠文堂新光社					
履修上の必要条件	上の内容をヒントに自分なりの動機を持って受講すること。					
授業外指示の補足	授業計画に沿って準備学習2時間及び事後学習2時間以上を行う。					
課題のフィードバック方法	テーマ毎の小テストの回答内容について、Teams機能を用いて実施する。					
担当教員からのメッセージ	受講生のニーズはそれぞれですので、顔ぶれやご希望を伺いながら詳細内容を調整し、また進みながら皆さんに合わせていきます。今日学んだことを顧客に、部下に、知り合いに説明できる、を目標に臨めば理解度アップです。					

授業科目名	光計測センシング特論 (Advanced Optical Sensing and Measurement)				ナンバリング	2-3-2-19
担当教員	花山良平、石井勝弘、林寧生				必修・選択	選択
科目群	II類	修学段階	応用	開講時期	後学期	単位数
遠隔授業	対応可能			対象コース	起業実践コース・新事業開発コース	
学位授与方針との関連	◎	尖端光技術を駆使した研究、または起業実践、新事業開発に資する研究を実行する能力を身につける				
	○	光技術を駆使した事業計画を立案し、実行する能力を身につける				
	—	新産業創成を推進する能力を身につける				
授業の概要	様々な光計測センシング技術について、その背景となっている光の性質、物理量測定のための解析モデル、測定原理、測定システム・装置の概要、物理量測定の応用例について講義する。					
ねらい・到達目標	さまざまな光計測センシング技術の原理について理解し、光計測システム、装置の設計・製作ができるようになる。 光のさまざまな性質、現象を理解する					
授業計画						
	授業内容	担当教員	授業外指示			
第1回	光計測入門	花山良平	【予習】講義資料の予習 【復習】復習、小レポート作成			
第2回	幾何光学計測	花山良平	同上			
第3回	光干渉計測1	花山良平	同上			
第4回	光干渉計測2	石井勝弘	同上			
第5回	ホログラフィ計測	花山良平	同上			
第6回	スペックル計測	花山良平	同上			
第7回	散乱計測	石井勝弘	同上			
第8回	偏光計測	石井勝弘	同上			
第9回	分光計測	林寧生	同上			
第10回	光ファイバ計測1	林寧生	同上			
第11回	光ファイバ計測2	林寧生	同上			
第12回	フーリエ光学	林寧生	同上			
第13回	非線形光学計測	石井勝弘	同上			
第14回	量子計測と量子情報処理	林寧生	同上			
第15回	超高速光計測	石井勝弘	同上			
成績評価	<p>【評価方法】各回課す小レポートにより評価する。</p> <p>【評価基準】成績は以下の基準により評価し、60点（C評価）以上を合格とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A：100～80点：到達目標を十分に達成できている優れた成績：合格 ・B：79～70点：到達目標を達成できている成績：合格 ・C：69～60点：到達目標を最低限達成できている成績：合格 ・D：59点以下：到達目標を達成できていない成績：不合格 					
教科書・参考文献	<p>講義資料を毎回配布する。</p> <p>参考文献：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・谷田貝豊彦：応用光学－光計測入門（丸善） ・光計測のニーズとシーズ（コロナ社） 					
履修上の必要条件	光学総論とフォトニクス特論の内容を理解していることが望ましい。					
授業外指示の補足	<p>配布する講義資料や参考書を参考に各回、予習および復習を各90分以上を行うこと。</p> <p>小レポートの対応（毎回1時間程度）と講義の復習（学んだ内容を自身のビジネスプランに活かせるかを検討する）</p>					
課題のフィードバック方法	Teamsを用いて課題を出し、フィードバックを行う。					
担当教員からのメッセージ	さまざまな光計測センシング技術について講義します。学んだ内容を自身のビジネスプランに活かせるかという視点で受講してください。					